

令和元年度 決算説明資料

令和2年10月8日

消防局

目 次

	頁
1 主な政令指定都市における女性消防官の状況について……………	1
(1) 職員数……………	1
(2) 女性専用施設の整備割合……………	2
2 消防力の整備指針の充足状況について……………	3
(1) 平成30年度……………	3
(2) 令和元年度……………	3
3 職員の育児休業取得状況について……………	4
4 消防団について……………	5
(1) 名古屋市大学生消防団……………	5
(2) 階級別女性消防団員数……………	6
(3) 女性消防団員が活動しやすい環境づくりのための取組み……………	7
(4) 大規模地震発生時の対応強化に係る消防団の合同放水訓練 に参加した消防団員からの意見等……………	7
(5) 名古屋市消防団車両の整備事業に係る意見聴取会議の結果……………	8
(6) 消防団詰所のモデル整備事業……………	9
5 スタンドパイプ初期消火資器材の取扱訓練実施状況について……………	10
6 戸別訪問による防災用品を活用した意識啓発における モデル実施の結果について……………	11
7 家具転倒防止ボランティアの年齢構成について……………	12
8 査察業務の適切な推進に向けた取組みについて……………	13
9 高齢者世帯の防火指導の実施状況について……………	14
【参考】75歳以上の要支援者数……………	15

	頁
10 救急活動用酸素ボンベの軽量化について.....	16
(1) 性能比較等	16
(2) 平均所要時間の比較	16
11 聴覚又は音声・言語機能障害者等からの緊急通報について.....	17
(1) 通報手段ごとの登録者数及び通報件数.....	17
(2) Net 119の通報イメージ.....	18
12 無人航空機（ドローン）の災害現場における活用の検証について.....	19
(1) 出動件数	19
(2) 検証結果	19
(3) 課題	19

1 主な政令指定都市における女性消防官の状況について

(1) 職員数

ア 平成30年度

平成30.4.1現在

区 分	全 消 防 官 (人)	女 性 消 防 官 (人)	女性消防官の割合 (%)
名 古 屋	2, 2 8 0	5 3	2. 3
横 浜	3, 7 2 2	1 3 4	3. 6
京 都	1, 7 7 6	7 1	4. 0
大 阪	3, 4 8 0	1 2 1	3. 5
神 戸	1, 4 2 4	4 6	3. 2

イ 令和元年度

平成31.4.1現在

区 分	全 消 防 官 (人)	女 性 消 防 官 (人)	女性消防官の割合 (%)
名 古 屋	2, 2 7 9	5 1	2. 2
横 浜	3, 7 5 0	1 3 6	3. 6
京 都	1, 7 6 8	7 7	4. 4
大 阪	3, 4 6 6	1 2 8	3. 7
神 戸	1, 4 1 9	4 5	3. 2

(2) 女性専用施設の整備割合

区 分	平成 3 0 年 度			令 和 元 年 度		
	仮眠室 (%)	浴 室 (%)	トイレ (%)	仮眠室 (%)	浴 室 (%)	トイレ (%)
名古屋	20.0	20.0	30.8	21.5	21.5	30.8
横浜	28.9	29.9	29.9	33.0	33.0	33.0
京都	46.8	46.8	46.8	46.8	46.8	46.8
大阪	16.9	16.9	28.1	19.1	19.1	29.2
神戸	27.6	27.6	65.5	27.6	27.6	65.5

注 各年度とも4月1日現在の数値である。

2 消防力の整備指針の充足状況について

(1) 平成30年度

平成30. 4. 1現在

区 分		基 準	現 有	充 足 率 (%)
施設	署 所	6 6	6 5	9 8.5
	車 両 等	2 8 7	2 8 1	9 7.9
人員	消 防 職 員 の 総 数	2,4 9 9	2,2 8 8	9 1.6
	警 防 要 員	1,9 9 2	1,8 4 8	9 2.8
	予 防 要 員	3 1 2	2 4 5	7 8.5
	庶務等の要員	1 9 5	1 9 5	—

(2) 令和元年度

平成31. 4. 1現在

区 分		基 準	現 有	充 足 率 (%)
施設	署 所	6 6	6 5	9 8. 5
	車 両 等	2 9 1	2 8 6	9 8. 3
人員	消 防 職 員 の 総 数	2,4 9 0	2,2 8 6	9 1. 8
	警 防 要 員	1,9 8 1	1,8 4 8	9 3. 3
	予 防 要 員	3 1 6	2 4 5	7 7. 5
	庶務等の要員	1 9 3	1 9 3	—

注 基準は、毎年度4月1日現在における人口、防火対象物数等を確認し、見直しを行うものである。

3 職員の育児休業取得状況について

区 分		対 象 者 数 (人)	取 得 者 数 (人)	取 得 率 (%)
平成30年度	男 性	138	6	4.3
	女 性	3	3	100.0
令和元年度	男 性	147	8	5.4
	女 性	7	7	100.0

注 男性の育児休業は、育児参加のために10日以上連続して休暇等を取得する場合を含む。

4 消防団について

(1) 名古屋市大学生消防団

ア 分団別団員数

平成31.4.1現在

区 分	団 員 数 (人)
愛知学院大学分団	21
愛知大学分団	21
中京大学分団	23
南山大学分団	19
名古屋市立大学分団	22
名古屋学院大学分団	17
東海学園大学分団	8
名城大学分団	11
合 計	142

イ 出場実績

令和元年度

区 分	延 べ 団 員 数 (人)
訓 練 指 導	301
教 養 訓 練	481
火 災 予 防	4
地 域 活 動	288
そ の 他	1,186
合 計	2,260

ウ 学生消防団活動認証制度による認証数

区 分	認 証 数 (人)
平 成 3 0 年 度	7 3
令 和 元 年 度	3 8

(2) 階級別女性消防団員数

平成31.4.1現在

区 分	団 員 数 (人)
団 長	2
副 団 長	5
部 長	3 5
班 長	1 0 5
団 員	2 6 8
合 計	4 1 5

(3) 女性消防団員が活動しやすい環境づくりのための取組み

令和元年度

区 分	内 容
執 務 環 境 の 改 善	・ 消防団詰所のトイレの改修 ・ 女性消防団員の活動環境に配慮した消防団詰所の検討（市による消防団詰所のモデル整備事業）
参 加 ・ 従 事 し や す い 訓 練 ・ 活 動 環 境 の 整 備	・ 各種活動の実施時期及び実施期間の検討 ・ 女性消防団員のみを受講者とする教養訓練の検討
活 動 し や す い 環 境 づ く り に 必 要 な 事 項 の 把 握	・ 消防団と消防隊との意見交換における要望等聴取 ・ 女性消防団員による意見交換会の実施

(4) 大規模地震発生時の対応強化に係る消防団の合同放水訓練に参加した消防団員からの意見等

ア 訓練の満足度

区 分	件 数
大 変 満 足 し た	76
満 足 し た	30
満 足 し て い な い	1
期 待 外 れ で あ っ た	0
合 計	107

イ 主な意見

- ・ 普段経験できない放水訓練は良い経験となった。
- ・ 実際の活動を想定した訓練は有意義であった。
- ・ 継続的・定期的に開催してほしい。
- ・ 実施回数をもっと増やしてほしい。
- ・ 訓練時間が短い。
- ・ 消防署でも同様な訓練が行えると良い。

(5) 名古屋市消防団車両の整備事業に係る意見聴取会議の結果

ア 意見聴取結果

区 分	内 容
平常時の活用 に必要な仕様	・ 効果的に広報活動を実施できるスピーカー、アンプ、マイク等 ・ 訓練等に使用する資機材が積載しやすいこと
災害時の活用 に必要な仕様	・ 大規模地震発生時の最優先任務である消火活動に必要な5名以上が乗車できること ・ 大規模地震発生時の消火及び救助活動に必要な資機材が積載できること
備えることが 望ましい機能	・ 可搬式ポンプの積み下ろしが容易となるレール等 ・ 可搬式ポンプを容易に搬送するための簡易的なリアカ ・ 無線アンテナ ・ バッテリー上がり防止機能 ・ バックモニター等安全機能 ・ 100Vインバーター
考 慮 す べ き 地 域 事 情	・ 駐車場が狭い、道路狹隘等の状況により、保有できる車両を選択できることが望ましい。

イ 目指すべき方向性についての結論

- ・ 平常時及び災害時ともに十分活用できる車両とする。
- ・ 過去の大規模災害時の状況や南海トラフ地震を踏まえた本市の消防体制に必要な人員及び資機材が搬送できるものとする。
- ・ 消防団車両の規格については、地域事情を考慮した一定の選択肢があることが望ましい。

(6) 消防団詰所のモデル整備事業

ア 整備場所

中村区横井一丁目378番1の一部

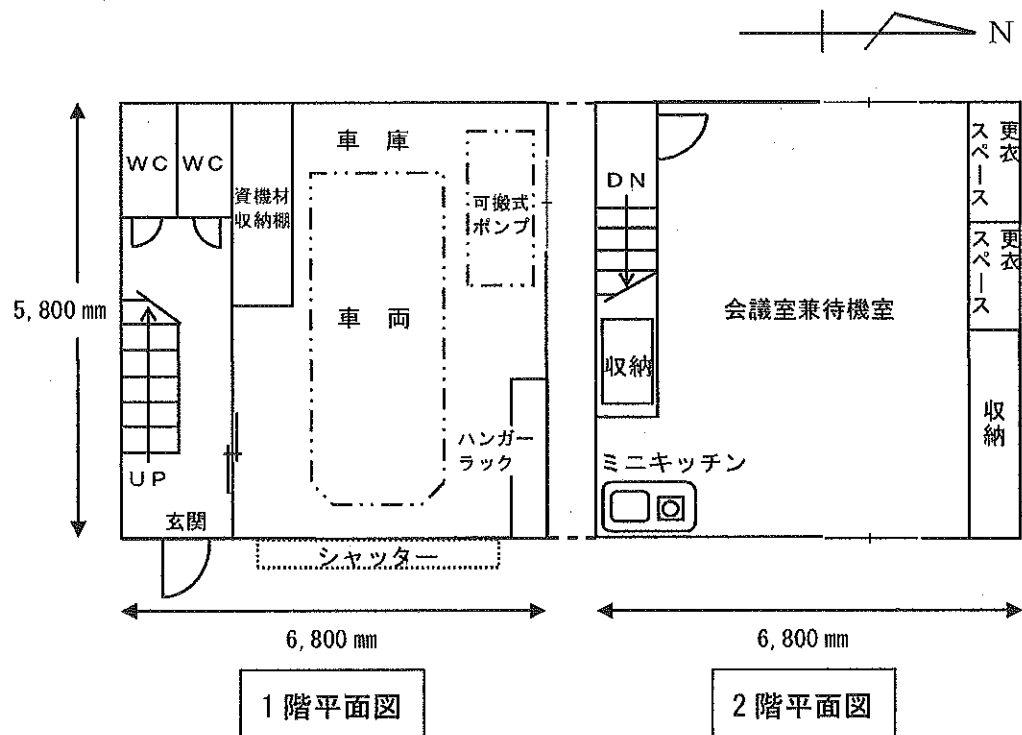
イ 構造

鉄筋コンクリート造2階建て

ウ 延べ面積

78.88平方メートル

エ 平面図



オ 外観



カ 検証

(ア) 内容

- ・ 整備手法について
- ・ 規模、設備等の仕様について

(イ) 結果

- ・ 総合評価落札方式入札後資格確認型一般競争入札は、安全性及び耐久性を確保する上で効果的
- ・ 設計・施工一括発注方式は、効率的かつ迅速な整備を行う上で有効
- ・ 大規模災害時も含めた消防団の活動拠点として必要な機能が確保でき、女性にも配慮された詰所の整備が実現

5 スタンドパイプ初期消火資器材の取扱訓練実施状況について

区 分	実 施 回 数 (回)	参 加 人 数 (人)
平成30年度	67 (29)	4,232 (225)
令和元年度	43 (37)	2,981 (365)

注 () 内の数値は、消防団員が参加したものを内数で示す。

6 戸別訪問による防災用品を活用した意識啓発におけるモデル実施の結果について

令和2. 3. 31現在

行政 区	学 区	寝室の家具転倒防止対策実施率（％）	
		防 災 用 品 配 付 前	防 災 用 品 配 付 後
千 種	富 士 見 台	68. 7	92. 5
東	砂 田 橋	56. 9	81. 0
北	川 中	62. 8	91. 6
西	比 良 西	72. 3	99. 9
中 村	日 吉	55. 5	70. 6
中	御 園	63. 4	78. 2
昭 和	鶴 舞	59. 5	83. 1
瑞 穂	御 劔	62. 1	83. 1
熱 田	旗 屋	69. 4	87. 4
中 川	玉 川	53. 3	78. 2
港	野 跡	43. 0	73. 5
南	千 鳥	57. 0	91. 6
守 山	西 城	67. 2	87. 9
緑	小 坂	63. 5	91. 5
名 東	猪 高	54. 4	78. 1
天 白	山 根	64. 9	90. 3
合 計		61. 1	85. 3

7 家具転倒防止ボランティアの年齢構成について

令和2. 3. 31現在

区 分	男 性 (人)	女 性 (人)	合 計 (人)
30歳未満	2	0	2
30歳以上40歳未満	4	0	4
40歳以上50歳未満	13	1	14
50歳以上60歳未満	25	6	31
60歳以上70歳未満	70	3	73
70歳以上80歳未満	124	7	131
80歳以上	20	2	22
不 明	5	1	6
合 計	263	20	283

8 査察業務の適切な推進に向けた取組みについて

区 分	内 容
関係者の理解が得られる接遇を身につけるための取組み	・ 予防課員の質の向上及び育成を図る方針を各消防署長へ通知 ・ 接遇面に的を絞ったマニュアルの策定 ・ 消防署予防課員に対し、関係者とのコミュニケーション能力を向上させるための教養を実施 ・ 新人予防課員を対象に、模擬査察演習を実施 ・ 消防署予防課員の査察に予防部予防課員が同行し、消防署における査察業務の実態を確認
適切な業務管理を行うための取組み	・ 各消防署予防課長に対し、管理監督者として必要とされる業務管理の徹底 ・ チェック表を活用することにより、予防課員が自身の査察事務を振り返るとともに、上司が部下の査察の状況を把握し、必要な助言・指導を行う体制の構築
関係者の目線に立った提案・指導を行うための取組み	・ 一律な是正指導ではなく、法令に適合し、かつ、火災に対する安全性が向上する様々な改善策の提示 ・ 事業所の実情に応じた訓練の提案を中心とするソフト対策の推進 ・ 地域特性に応じた防災情報の提供

9 高齢者世帯の防火指導の実施状況について

区 分	平成30年度			令和元年度		
	実施世帯	面会できた 世帯	面 会 率 (%)	実施世帯	面会できた 世帯	面 会 率 (%)
千 種	59	51	86.4	335	218	65.1
東	15	15	100.0	131	121	92.4
北	45	42	93.3	451	354	78.5
西	291	189	64.9	143	103	72.0
中 村	78	66	84.6	425	270	63.5
中	25	20	80.0	158	112	70.9
昭 和	120	71	59.2	230	180	78.3
瑞 穂	47	27	57.4	235	204	86.8
熱 田	37	24	64.9	174	133	76.4
中 川	76	66	86.8	319	270	84.6
港	225	172	76.4	394	199	50.5
南	78	59	75.6	271	206	76.0
守 山	100	87	87.0	349	205	58.7
緑	23	18	78.3	392	314	80.1
名 東	37	37	100.0	187	130	69.5
天 白	43	43	100.0	278	183	65.8
合 計	1,299	987	76.0	4,472	3,202	71.6

【参考】 75歳以上の要支援者数

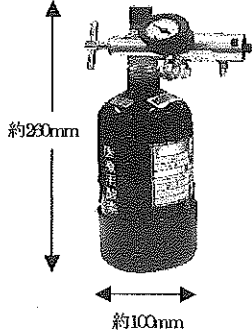
区 分	平成30年 (人)	平成31年 (人)
千 種	2, 3 4 9	2, 2 9 9
東	1, 0 3 3	1, 0 9 9
北	2, 5 6 0	2, 6 7 9
西	1, 9 2 1	1, 9 3 2
中 村	2, 3 5 1	2, 4 8 9
中	1, 0 8 7	1, 0 5 7
昭 和	1, 6 5 9	1, 6 7 4
瑞 穂	1, 8 8 7	1, 8 9 7
熱 田	9 7 9	9 4 9
中 川	2, 7 6 8	2, 9 6 3
港	1, 9 4 7	2, 0 8 7
南	2, 2 9 8	2, 3 9 8
守 山	2, 0 3 8	2, 1 9 8
緑	2, 6 1 9	2, 7 9 4
名 東	2, 1 6 5	2, 1 8 6
天 白	1, 8 6 5	1, 9 2 0
合 計	3 1, 5 2 6	3 2, 6 2 1

注1 各年とも3月31日現在の数値である。

2 要支援者とは、介護保険法に基づく要支援認定を受けた者をいう。

10 救急活動用酸素ボンベの軽量化について

(1) 性能比較等

区 分		更新前の酸素ボンベ	更新後の酸素ボンベ
容 器		アルミニウム合金製容器	繊維強化プラスチック複合容器
内 容 積		2.0 L	1.1 L
最高充填圧力		14.7 MPa	19.6 MPa
大 き さ	長 さ	約 370 mm	約 260 mm
	直 径	約 110 mm	約 100 mm
重 量		約 6.5 kg	約 3.5 kg
外 観			

注 重量には、キャリーバッグ等の付属品を含む。

(2) 平均所要時間の比較

令和元年度

区 分	現場到着から傷病者を救急車内に 収容するまでの平均所要時間 (分)
酸素ボンベの 更 新 前	8.6
酸素ボンベの 更 新 後	8.5

注 数値は、救急隊が酸素投与を実施し、かつ、一般住宅の2階又は3階で傷病者と接触した事案に係る平均所要時間を示す。

11 聴覚又は音声・言語機能障害者等からの緊急通報について

(1) 通報手段ごとの登録者数及び通報件数

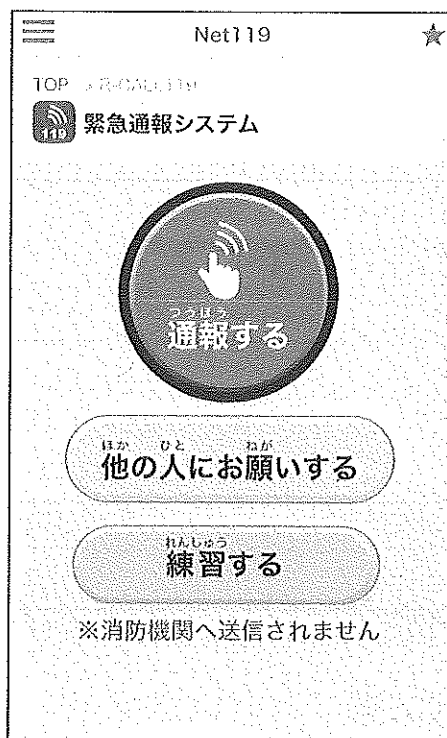
令和元年度

区 分	内 容	登 録 者 数 (人)	通 報 件 数 (件)
N e t 1 1 9	聴覚又は音声・ 言語機能障害者等 からのインターネ ットを用いたチャ ットによる通報	1 2 0	3
メ ー ル 1 1 9	聴覚又は音声・ 言語機能障害者等 からのEメールに よる通報	2 3 8	1 6
ファックス119	聴覚又は音声・ 言語機能障害者等 からのファクシミ リによる通報	—	2 8
あ ん し ん 電 話	心臓病の慢性疾 患があるひとり暮 らしの高齢者等か らの緊急通報装置 による通報	2, 0 7 2	6 6 1

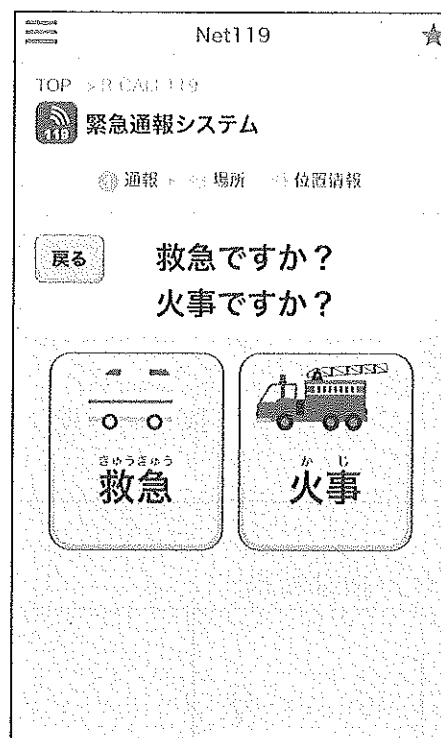
注 登録者数は、令和2年3月31日現在の数値である。

(2) Net119の通報イメージ

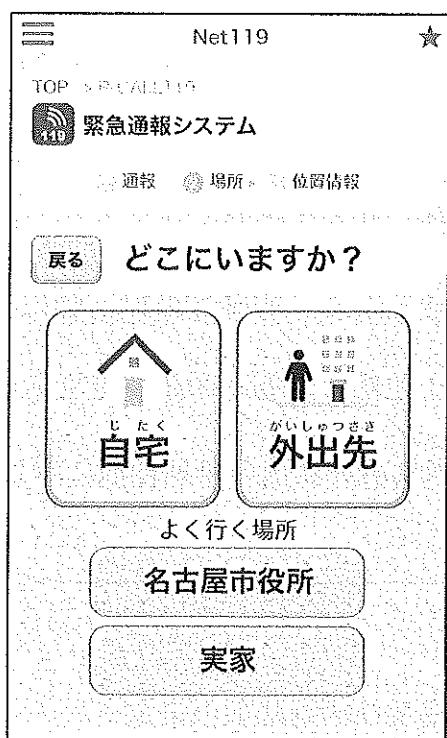
①「通報する」を選択



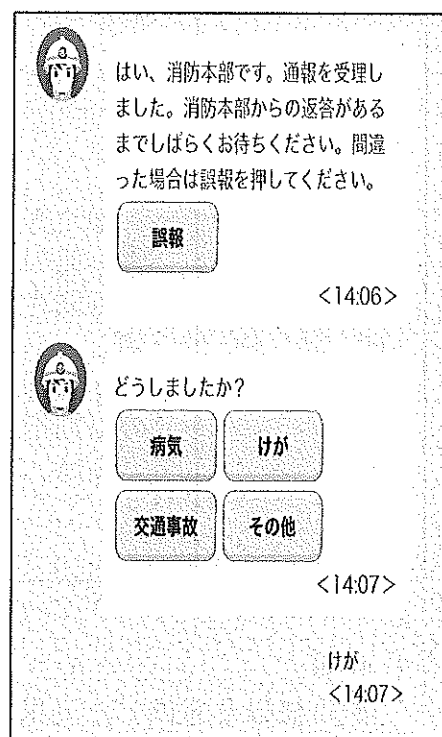
②「救急」又は「火事」を選択



③「自宅」又は「外出先」を選択



④チャットを開始



「自宅」を選択

通報

通報

「外出先」を選択した場合、
地図画面から
現在地を決定

12 無人航空機（ドローン）の災害現場における活用の検証について

（１）出動件数

令和元年度

区 分	件 数
火 災	14
救 助	3

（２）検証結果

区 分	内 容
飛行性能等	・ 火災及び救助現場における飛行、撮影及び画像伝送に支障がないことを確認
有 効 性	・ 地上からは死角となる場所の状況を確認できるため、災害実態の早期把握に有効 ・ 各隊の活動状況を俯瞰できるため、的確な指揮活動に有効 ・ 赤外線カメラの熱画像による隣接建物への延焼拡大危険の早期把握に有効 ・ 高所、水上等における要救助者の状況の早期把握に有効

（３）課題

消防部隊と連携した効果的な運用体制の構築及び活動基準の策定